

り長翼も亦用ゆる處なく再び穴の外に出る能はざるなり。故に毎朝穴を檢すれば、二三百羽の鳥は穴の中にありて、其混雜する状は又一奇觀なり。

此種は日本朝鮮近海に普通に見らるゝ鳥にして、其分布北は函館に至り、南は「ヒロピン」諸嶋に及ぶ。

四。クローウミツパツの一種 (Bulweria bulweri (Jard.)) 前者よりも遙に小にして、全身は艶なき黒色の羽毛を以て被はる。在島者等は之を「フーキャー」と呼ぶ。英名 Bulwer's Petrel は乃ち此種なり。其飛べる様、翼長くして燕に似たり。此鳥も亦管鼻類の一種にして、前種と略同時に渡來し、其習性も相類す。但し前種よりも其數少し。岩石等の根に淺き穴を穿ちて棲み、此中に一卵を産む。之も亦一孔に雌雄あり。地下に「クークー」の奇聲微かに聞ゆるは、此鳥の鳴くなり。卵より孵化し出てたる雛は黒く、九月初頃に至れば、翼羽備はりて此島を去る。此鳥は温帯の海洋に廣く分布す。本邦内にては、本島の外小笠原群島諸處に多く棲息す。

五。ラサトリ一名「カツオトリ」(Sula Sula, Cat.) 前四種とは大に異なる海禽にして、其數多し。多く皆海岸の絶壁上にありて、島内に入り來らず。本島棲息者の中、最人を恐れ、忽ち飛去りて、捕ると容易ならず。体は鴨よりも少しく大く、頸は甚長し。成育せるものは全身帶紫黒褐色にして、唯腹部一帯と翼下等は純白なり。嘴は眞直にして尖り、縁青色を呈す。顔面は裸出し、丸き眼は銀白色の虹彩を有し、其容貌大に意地悪しきものゝ如く見ゆ。脚も亦蒼色を帯び、行歩の状甚た醜し。岩

上にあるや大ひね海面に向ふ、故に在島者は「ムカイトリ」と稱せり。英語の所謂 Booby Gannet は之にして、主に魚類を食す。殊に鯉等の群集するや、此鳥附隨して、離れず。故に漁師等は魚族の來集を判する目標となすと云ふ。之れ「カツオトリ」の名ある所以なり。予が着島の時は恰も此鳥の産卵期にして、海岸の岩上に巢を營むを見たり。巢は單に岩上平なる處に「ハママンネグサ」等をしきたるのみにて、其上に二乃至三粒の卵を産む。鳥の巢は絶壁人の近く能はざる處に多きも、又近づき易き處にもあり。予は島内巡回の際、二時間にして四十五の卵を得たり。卵は家鴨卵大にして蒼白色を呈し、表面は恰も白粉を塗りたるが如く、質脆弱なり。試に之を食するに、味又決して不佳ならず。雛は親と全く異なりて純白色の毛羽を有し、後交脱し、羽翼生ずれば此島を去る。此鳥の渡來し初むるは二月頃にして、五月に至り産卵し、九月末より十月の間に飛去ると云ふ。朝鮮日本近海には普通にして、尙南方は「ヒロピン」諸島より濠州の北岸に至るまで、分布し此鳥の生産地としては本島の外に尙小笠原島あり。

以上記述せる海禽五種は本島の重なる棲住者にして、各種は相交代して常に孤島の寂寞を破る。實に黃尾鳥は此等海鳥の郷土なりと云ふ可し。海禽の通性として、他の期には諸處に飛行けども、産卵期には必ず此島に歸來る。以上の五種は皆何れも一雌一雄にして、然も雌雄は外觀上區別し難し。殊に注目するに足るは本島所産の鳥が、何れも遠く隔りて、然も緯度の異なる小笠原諸島に産し、彼地に於て又繁殖すると是なり。然るに又尖閣列島中にありても、僅に海上十五